

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100130		
法人名	特定非営利法人(NPO法人)三和会		
事業所名	グループホーム かわらはま		
所在地	前橋市河原浜町21番4		
自己評価作成日	平成26年6月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成26年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を楽しめる外出行事や歌・踊り・ウクレレ・ハーモニカ・お茶・お花等、地域の方による慰問が盛んにおこなわれており、交流を楽しんでいる。  
 日々の生活ではホーム菜園で取れた野菜を食べ利用者様同士喜びを実感したり、調理・食器片付け・洗濯たみ・掃除等を御利用者と職員と一緒にいき、楽しみながら生活リハビリをしている。  
 一人ひとりの御利用者が、安心して楽しく笑顔でいられるやすらぎの空間が提供できるように全職員で考え支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のいきいきサロンやイベントに参加をしたり、定期的に地域ボランティア(歌・踊り・楽器演奏・お茶・お花等)が来訪しており、地域住民との交流が活発に行われている。職員の言葉かけや対応は穏やかで、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、体操や役割(掃除・洗濯物たみ・野菜の収穫・調理手伝い等)、レクリエーションを一緒に行っている。利用者の表情は明るく、ゆったりと過ごしているように見受けられた。ホーム周辺は自然環境に恵まれ、四季折々の景観を楽しむことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有し、地域住民の一員として自由に生活できるような環境づくりを心がけ地域に溶け込めるように職員全員で支援している。	管理者と職員は、申し送り時や会議等でケアの方向性を確認し、理念を共有して実践に取り組んでいる。利用者とのコミュニケーションを大切に、地域住民との交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設に近隣の住民の方が定期的に歌・踊り・ウクレレ・ハーモニカ・お茶・お花等の慰問交流をしている。地域のお祭りやイベント、いきいきサロンに参加している。また入居者の知人が訪れている。	地域の祭りやイベント、いきいきサロンに参加をしている。傾聴ボランティアや近隣住民のボランティア(歌・踊り・ウクレレ・ハーモニカ・華道・茶道等)が定期的に訪れ、利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達にグループホームの役割・認知症という病気の病状について、運営推進会議や入所申込み時等、機会がある際には説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族が発言しやすい環境を整え、意見や苦情等を職員全員で検討し改善している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。利用者も参加をしている。運営状況や評価への取り組み等の報告、身体拘束や熱中症対策等について話し合いを行っている。意見や苦情等をサービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者出席のもと運営推進会議を行い、施設の実情報告をしている。また不明な点があった場合は聞き取っている。	利用者の報告や申請代行等で市の担当窓口へ出向いたり、電話等で相談や意見交換を行い、市の担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として拘束をしないという考え方を職員全員で理解している。また「身体拘束廃止推進委員研修」に参加し、研修内容を施設職員に報告をし共有している。	玄関の施錠を含めて、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。「身体拘束廃止推進委員研修」に参加している。勉強会で内容の報告を行い、職員の共有認識を図っている。スピーチロックについては、具体的な言葉を職員トイレに掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進委員(身体拘束廃止推進委員)養成研修等の研修に参加したり、施設内で高齢者虐待の勉強会をして知識を深め職員一人ひとりが防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修内容を施設で勉強会として行い、一人ひとりのレベルアップを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、質問をしやすい環境づくりを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で運営に関する情報も公表し、意見を反映できるようにしている。	利用者の要望等は日常の会話や様子等から汲み取っている。家族等の来訪時には、状況報告を行い、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の際に意見を検討し、反映させるようにしている。	日々のミーティング、ケース会議、全体会議の際には、職員間で意見や気づき等を出し合い、それらを検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や働きやすい環境を整えるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や経験を把握し一人ひとりに合った研修になるべく参加できる環境を作り上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修や勉強会に参加し、他施設職員との交流ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御本人の意向を十分聞いたうえで、より良いサービスの提協ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御家族の意向を十分聞いたうえで、より良いサービスの提供ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の意向を十分に理解した上で、色々なサービスの方法を考え提案し、対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と職員と一緒に生活しているという意識を持ち、支えあいながら人生を歩む関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を中心に家族と施設職員が協力し、共に生きる家族となれるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ御家族・友人に来ていただけるように来所しやすい環境や言葉かけを心掛けている。また入所前から使い慣れた物は継続して使用できるようにしている。	入居時、馴染みのものや場所等を聞き取り、使い慣れたものを持ってきてもらえるよう伝えている。家族や友人に遊びに来てもらえるよう、言葉かけや環境づくりに努めている。家族等と一緒に受診・墓参り・外泊等へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や趣味・個性などを十分に把握し、利用者さん同士の関係が円滑にいくように職員が間に入りいい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの御本人・御家族の関係をいつまでも継続できるように、何かあれば相談しに来ていただけるような言葉がけや環境を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望をモニタリングや普段の生活の中から吸い上げ、希望に添えるサービス提供を柔軟に支援している。	日常の関わりの中で、本人の言葉や表情等から要望等を汲み取るようにしている。家族等からも情報を得て本人の視点に立って検討している。本人に選んでもらう場面を作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境や生活歴などを御本人や御家族より聞き、その人をできるだけ理解できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況を朝のミーティングで報告しあい情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の希望を取り入れ、職員全員及び医療関係者も含め話し合い工夫しながら介護計画を立てている。	本人・家族等から意向を聞き取り、医療関係者との意見交換や職員間で話し合い、介護計画を作成している。月1回のモニタリング、3ヶ月に1回の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法の成功例や失敗例を連絡ノート・ケース記録に記載し、情報共有できるようにしている。また、それをミーティングにて話し合い、介護計画に繁栄している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのその日の体調や気分に合わせて外出したり、イベントをしたりして柔軟に対応できるような環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の得意不得意を把握し、残存機能維持向上生活ができるように地域資源も含め支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望を聞き、希望に沿った医療機関の受診をしていただけるようにしている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診・通院が出来ない場合には、職員が代行している。必要時には、歯科の訪問診療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護師に身体機能の変化を随時連絡して適切な処置方法が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携し適切な入院治療を受けられる支援を行い、退院時は医療機関や御家族との情報交換を密にし、早期退院できるような環境づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を入所時に説明し、理解していただき同意書をいただいている。	入居時、「重度化した場合の対応に係る指針」を本人・家族等に説明して、同意を得ている。状態に応じて家族等と話し合い、看取りを希望する場合には、「看取り介護についての同意書」をもらい、家族等の要望に沿って支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は代表者・管理者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月実施し、全職員が訓練できるように行っている。地域の方達には火災が発生した場合、協力を御願している。	毎月、避難誘導訓練を実施したり、年1回自主防災訓練を実施している。年1回、消防署立会いで総合防災訓練を実施しており、地域の人も参加している。災害時の備蓄として、飲料水・食料等の用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を持ち一人ひとりを尊重した言葉かけを徹底している。	利用者の人格を尊重し、その人に合わせた温かな言葉かけをするよう心がけている。職員同士がお互いに注意し合えるような環境づくりをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な生活場面で自己決定できるように職員が選択肢を提供して決めていただくようにしている。また毎週月曜日は訪問販売のパン屋が来るので御本人に選んで戴き、昼食に食べている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなくあくまでも利用者さんのペースや希望に合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく御本人の希望に沿って清潔な身だしなみができるように職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの希望に沿った献立を入れながら、状態に合わせて食事を考え、準備や片付けを職員と共に行っている。	利用者はテーブル拭きや後片づけ、おやつ作り等を職員と一緒にやっている。利用者の希望を取り入れ、新鮮な食材を使用して料理を提供している。毎週パンの訪問販売車が訪れ、利用者は自分で好きなパンを選んでいる。	飲み物に関しても、利用者が好きな飲み物を選択できるよう、一人ひとりに希望を聞いて提供して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェック表にて把握し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた口腔ケアを毎食後行えるように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ残存機能を活かし、排泄が行えるようにその人に合った支援を行っている。	排泄パターン表を使用して、その人の排泄パターンを把握したり、本人の態度を見ながら、その人に合わせた言葉かけや誘導を行い、失禁の回数を減らすように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄パターンを把握し、御本人の希望や医療機関とも連携し、その人に合った排泄コントロールの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前中に全利用者さんに声かけを行い、希望に沿って入浴支援を行っている。また希望がない場合は個々のニーズに合わせて定期的に入浴して載っている。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっている。毎朝一人ひとりに言葉をかけ、入浴の希望を聞いている。同性介助を行っている。入浴拒否の場合には言葉かけ等の工夫をしている。ゆず湯やショウブ湯をすることもある。	毎朝、入浴希望を聞いているが、定期的な入浴支援が多い。利用者の力に応じた聞き方の工夫をして、入浴を楽しんでもらう回数の増加に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや心身状態を把握し、安心して自由に生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報は入所前に職員全員で確認し、身体状況の変化があった場合は主治医と連携し症状に合わせた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好みを把握し、張り合いのある生活ができるように環境的支援も含めサービス提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの希望に合わせて戸外に出られる支援をし、御家族と共に気軽に外出・外泊できるような環境を提供している。	利用者の希望に合わせて、外気浴や散歩、季節毎の花見・ドライブ、外食・初詣・近隣施設の祭りへ出かけたり、家族等と一緒に買物や外食、墓参り・外泊をすることもあり、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には施設が行っているが、本人の希望でお財布を保管されている方もいる。また外出の際には自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に外部の方と連絡が取れる様に手紙や電話を自由にやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような草花や飾り付けをし、やすらぎの生活空間を提供できるように心掛けている。	庭にプランターを置き、野菜や季節の花々を植えている。玄関ホールに喫煙所を設けている。室内は明るく開放感があり、清潔が保持されている。利用者の作品や行事の写真等を飾り、落ち着いた装飾がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの利用者さん同士のふれあいの場所や一人で日向ぼっこができるようにソファを配置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はなるべく自分の部屋にあったものを持参していただき、今までの部屋と似た感じの居室作りを行っている。	各居室には、テレビ・衣装掛け・衣装ケース・テーブル・椅子・書籍・家族の写真等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、できない部分を職員が支援させていただき、安全安心して生活できる環境づくりを心掛けている。		